

チャノキイロアザミウマの卵寄生蜂 *Megaphragma* sp. の茶園における発消長

松比良邦彦・神寄保成 (鹿児島県茶業試験場)

Kunihiko MATSUHIRA and Yasunari KOZAKI :

Seasonal trends of the Yellow Tea Thrips, *Scirtothrips dorsalis* HOOD, and its Egg Parasitoid, *Megaphragma* sp. in Tea Garden

アザミウマタマゴバチ(以下,タマゴバチ)*Megaphragma* sp. は, アザミウマの卵に特異的に寄生する卵寄生蜂の1種であり, 我が国では1979年にチャノキイロアザミウマ(以下, アザミウマ)の卵から初確認されている¹⁾。鹿児島県川辺郡知覧町鹿児島県茶業試験場内の茶園でも, 本種の発生が認められたので吸引粘着トラップを用い発消長を調査した。

1. 材料および方法

1996~1998年の3~11月に品種やぶきたにおいて, 当場内にある無防除茶園(15a)中央部に粘着スプレー(金竜スプレー®)を塗布したガラス板(20×20cm)を載せた粘着トラップ1基を設置した。吸引粘着トラップは特注製で, 吸入ファンにCentaur社MODEL CT3B55A(100V13W), ケースは透明アクリル製で全長24cm, 吸入口面積12×12cm, 排気口面積6.5×6.5cmのものを用いた。ガラス板は半旬毎に交換回収し, 捕虫されたタマゴバチとアザミウマ成虫を実体顕微鏡下で調査した。また, 1998年には更新程度の異なる茶園3カ所に1基ずつ吸引粘着トラップを設置し, 同様の調査を行った。

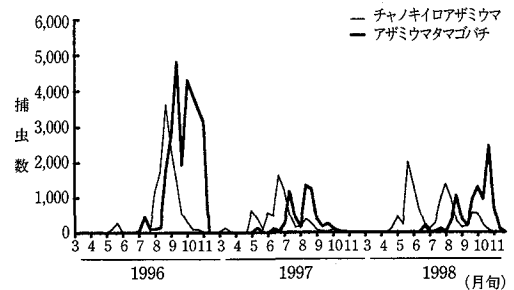
2. 結果および考察

アザミウマは年次により発生パターンが異なり, 1996年は8~10月の秋芽生育期に, 1997年は5, 7月の二, 三番茶期に, 1998年は6, 8, 10月にそれぞれ捕虫ピークが認められた(第1図)。タマゴバチは, 各年とも7~11月に2~3回の捕虫ピークが見られ, 夏秋期に多い傾向にあった。捕虫消長結果から推測したタマゴバチの初発時期は4月下旬であり, 終息時期は調査を11月で打ち切ったため判然としなかったが, 少なくとも11月下旬までは捕虫された。タマゴバチの捕虫数は, アザミウマの発生が多い1996年は多く, 発生が少なかった1997, 1998年では少なかった。

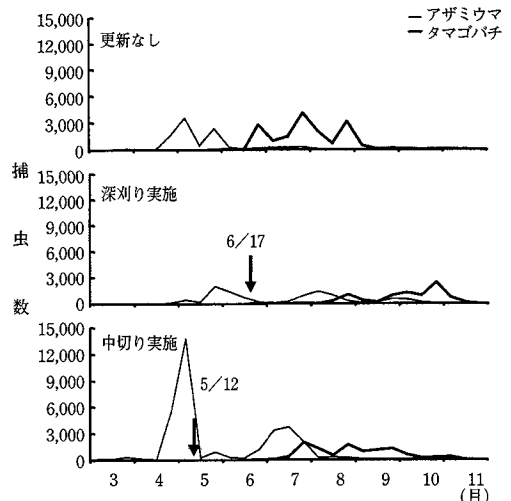
1998年に, 更新程度の異なる茶園において同様の調査を行った結果, 第2図に示すようにタマゴバチの捕虫数は, 未更新茶園に比べ, 深刈り(葉層を除く程度刈り取った)茶園および中切り(地面から50cm高で刈り取り)茶園では少なかった。また, アザミウマも同様な傾向が認められた。更新によってタマゴバチが減少した原因に, 寄主であるアザミウマの密度低下と既寄生卵を含んだ葉が除去されたことも考えられた。タマゴバチの活動阻害要因に非選択制農薬の散布が示唆されているが¹⁾, 本調査結果から, 茶園では更新作業による物理的な要因による密度抑制も考えられた。

引用文献

- 1) 梅谷献二 工藤 巖 宮崎昌久 農作物のアザミウマ, pp 422, 全農協, 東京, 1988



第1図 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマとアザミウマタマゴバチの発消長(1996~1998年 無防除茶園)



第2図 更新程度の異なる茶園におけるチャノキイロアザミウマとアザミウマタマゴバチの発消長
注) 矢印は更新実施日を示す